



前回に引き続きサークルは東地区オンリーの開催となりますが、これはこれで悪くないという声も。

会場環境は激変の中の暫しの中休みだとしても、参加者側は『前回と同じだからいいや』と思考停止せずに、その時々のルールと環境に合わせてセルフアップデートして、より良く変化し続けていきましょう！



■■寒さキツさも入場まで■■

関東地方の最も寒い時期からは少し外れるとはいえ、真冬と呼んでさしつかえない時期に開催される以上、冬コミの参加者にはきちんとした防寒対策が要求されることは間違いない。

しかし、この『きちんとした＝適切な』というのが意外にクセモノで、夏の暑さ対策のように、ほぼ全員似たような対処が必要という性質のものではなく、参加する場所、時間、立場によって最適解が全く違うものとなってくる。そのため、ある参加者にとっては“きちんとした”装備が、ある参加者にとっては過剰だったり、逆に不足だったりといったことが起こり得る。つまり、冬コミの防寒対策は、自分の参加スタイルに合わせて最適化する必要があるのだ。

そして、その際に基準となるのが、会期中を通して自分がどこに居る時間が最も長いと思われるかである。シャッター前のサークルなどの例外を除き、ホール内で殆どの時間を過ごす分には、それほど大仰な防寒装備は必要ないし、逆に屋外で長時間待機する前提なら、かなり本格的な装備が必要になる。さて、アナタはどうやって参加するのだろうか？

■アナタは、どこにいますか…？■

冒頭に述べた通り、冬コミでは、参加する時間帯と場所によって、その環境が大きく異なる。そのため自分自身のコミケットへのアプローチを確定しておかなければ、適切な防寒対策を講じることは難しい。もちろん、明確な目的やプランなしに参加するとしても、全く何の対策も無しでよいということにはならない。その場合でも基本的な防寒は施しておこう。

●まずは時間と必要装備の関係をCheck！

●Very Hard Mode

- ☐ 始発以降の早朝から待機するツモリだ。
- ☐ 目当てに企業ブースや大手サークルが多数ある。
- ☐ サークルの配置場所がシャッターの付近だ。
- ☐ 一緒に並ぶ同行者が居ない

●Hard Mode

- ☐ 快晴に近い天候で微風でも風がある予報が出ている。
- ☐ 雨や雪が降っている／降る予報が出ている。
- ☐ これまで早朝からコミケットに来場した経験が無い。

●Normal Mode

- ☐ 参加は午後から、待機列に並ぶ予定はない。
- ☐ サークル参加であり屋外に出ない。
- ☐ ベテラン同行者がいる。

待機時間が長い。
寒さが厳しい。
トイレに行きにくい。
買物や休憩に行きにくい。

風があるとより寒い。
濡れるとさらに寒い。
勝手が分からないと適切な準備が難しい。

環境が安定している。
寒さにさらされる時間が短い。

最重装備
全部載せ

+

ポイント
防寒装備

+

全員必須
基本装備

●長時間屋外待機：装備全部載せ

考えるまでもなく、最大限の防寒が必要なケースである。

屋外では雨や雪の際は当然として、晴れている場合でも十分な防寒が必要になる。冬の関東地方はとくに晴天時、深夜から夜明け前にかけて放射冷却が一番気温が下る上に、早朝には海辺のビッグサイト周辺は風が出ることも多く、非常に体温を奪われやすい環境になるためだ。

その上、長時間の屋外待機となると、地面からも冷えが這い登ってくるし、万一雨や雪で服や靴が濡れても簡単に着替えることもできない。着衣も靴も、防風、防水まで考えて選択することが必要となる。

また、長時間の待機中のカロリーや水分の補給、トイレについても最初から織り込んで考えねばならず、**ビギナーにはハードルが高い**。

●長時間の待機はしない予定：ポイント防寒

特に一刻を争うまでの目標はないが、少しでも早めに入場したい、という大部分の参加者が含まれるであろうケース。この場合も、待機時間がそれほど長くないからと甘く見ず、しっかりと対策をする必要はある。しかし、活動のメインはホール内と考えると、あまり**重厚な防寒具や装備はホール内ではかえって暑かったり邪魔になることもある**。そのため、活動しやすい服装をまず整え、その上から後で脱ぎ外して体温を調整できる防寒具を身に付けるのがオススメだ。

その分、マフラーや手袋などを落とさないよう注意が必要になるので、巾着袋などを用意しておいて、防寒具は必ずそこにしまう、というようにするとよいだろう。

●全員必須の基本装備

待機時間の長短やサークル、一般参加の別なく、とりあえず冬コミに参加するならしておいたほうがよい基本の防寒対策であり、そのコンセプトは**全身をくまなくアンダーウェアで覆う**ことにある。

基本的にどんなに厚手で防寒性能の高い上着でも、その性能を十分に発揮するためにはその下に何を着るかが重要となってくる。汗や万一の雨などで濡れても身体を冷やしにくい化繊やウールなど、綿以外の素材のアンダーウェアを選択すべきなのは夏と同様だが、加えて、防寒の秘訣は足腰からの体温損失を防ぐことにあるので、男女を問わず厚手の靴下と肌に密着する防寒アンダーウェア（男性はズボンの下に履く足首までの化繊のアンダー、女性は服装によってタイツや防寒タイプのストッキング）の着用を強くオススメしたい。

ボトムを重ね着とすることで、全身の保温力を大きく改善し、防寒能力を保ったままより薄着で動きやすい服装を選択することが可能になる。これは特に交通機関やホール内など、温度環境が変わる場所を通して活動する際に快適性において大きな差がつく。

●防寒グッズは的確に使いこなそう

端的に言えば**外気に体温を奪わせないことが『防寒』**である。なので体温が外に逃げていく部分を的確に覆えば、効果的な防寒となる。頭や顔、首周り、手首、足首それぞれ座った時に露出しやすい腰が体温が逃げるスポットなので、この部分を集中的にガードしたり、逆に暑くなってきたら開放することで体温を適切に維持することができる。

帽子、マフラーやネックウォーマー、手袋で体温の逃げ道を塞ぎ、腰にはカイロを貼ることで効果的に体温を補うことができる。また、呼吸で冷たい乾燥した空気を体内に取り込むことでも体温を奪われるので、マスクは風邪やインフルエンザの予防もかねられる優れた防寒グッズといえる。

待機中は立っていても座っていても、**地面に接する部分から冷えるので**、底の厚い靴を選ぶ、靴の中に防寒用の厚手の中敷きを入れる、座る際には断熱に優れた発泡スチロール板や折りたたみ椅子と携帯座布団を用意するなどの対策をしておくといよい。



■■徹底迎撃・雨＆雪対策■■

『ただでさえ寒さ対策が色々面倒なのに、更に雨や雪の対策なんて考えたくもないよ!』というのが大方の参加者のホンネだろう。しかし、実際に近年も悪天候に見舞われた事実がある以上、全くの無策で文字通り運を天に任せるというのでは心もとない。

冬の雨や雪に濡れて体調を崩し、せっかくのコミケットを、その後に続く新年を棒に振らないためにも、全員が対策方法を知り、最低限の準備をして参加するようにしてほしい。

雨でも雪でも、対策をしていない参加者を避けて降ってはくれないのだ。

——■真実は、いつもひとつ!■——

まず最初に述べておきたいが、**雨や雪が降っている中、わざわざ長時間列に並ぶ理由があるのか?**ということは、全ての参加者が検討してみるべき命題だろう。並んでいたら降りだしてしまった、というのであれば致し方ないが、夜から降っているような場合であれば、最初から雨の中で並ぶという行為そのものをしない選択肢はある。

ズバリ、『**降っているなら無理に並ばない**』のがこの場合の絶対的正解なのだ。

現在のところ、入場待機列は11:30くらいの時間には解消され、入場フリーになっている。始発直後から並んでも、フリーになる前後に並んでも、入場できる時間は1時間前後しか変わらない。その1時間のアドバンテージを得るために、冬の雨の中で4時間待ち続けるだけの明確な目的がアナタにあるだろうか? 漠然と『少しでも早く入らないと回る時間が足りなくなってしまうから』という理由で雨でも早くからの待機を考えているのならば、行列には並ばない決断を下してその分いつもよりゆっくりと眠り、朝食をしっかり摂って、待機に必要な装備類も持たずに入場できたなら、その体力的余裕で1時間の差分は十分に挽回可能ではないかということも考えてみてはどうだろうか。

雨の中の待機というのはそれくらい身体への負担が大きく、体力を消耗する上に、雨を十分に防げるだけの装備を用意するにはある程度の資金も必要になる。

それでも並ぶという決心が固いのであれば、途中でリタイヤしなければならないような事態に陥らないようにしっかり準備をして臨んでほしい。

●並んでいる最中に降り出したら…?

一刻も早く雨具を身に着けよう。夏とは異なり、冬の雨は急激に激しくなることはあまりない。しかし気温が低い分、**濡れてしまった服は簡単には乾かないので、最優先は人間だ。**

とはいえ、夏冬関係なく、待機列の中や混雑した場所では、傘を使うことは避けなくてはならない。前後左右に参加者が密集した待機列では傘の骨の先端が周囲全方位にとって危険であり、また雨水が周囲の参加者やその荷物に流れ落ちるので非常に迷惑であるためだ。待機列中では雨が降り出しても、スタッフが傘をささないようにアナウンスする場合があるので、その際には持っていた傘を開かないこと。

なので雨が予想される場合でも、傘は折りたたんでカバンにしまえるもの(混み合ったホール内を移動するときには長い傘はひっきりややすく危険で邪魔なため、折り畳み傘の方が望ましい)を持参し、**ポンチョ**など傘以外のすばやく簡単にはおれる雨具を必ず用意しておこう。

●安心のWater Proof

最初から降っているにしろ、途中から降り出すにしろ、悩ましいのが雨模様の時の衣服や靴だ。それならば最初から、全天候型のアウトドアスポーツ装備を導入してはいかがだろう。『ゴアテックス』を代表とする透湿防水素材を使用したジャケットは、それ単体で雨具の代用にもなり、防寒性能も優れる。靴も水に浸かっても簡単には浸水しない頼もしさと、地面からの冷えを遮断し、疲労感を低減する履き心地を誇る。カバンだって完全防水を謳う製品はいくつもある。いずれもお値段は張るが、『持っていてよかった!』と思える逸品だ。この機会に自分自身の対コミケット礼装として、課金してみては…?



■防寒+防水=護身完成■

ここまで別々のカテゴリとして解説してきた寒さ対策と雨対策だが、実は統合可能で、むしろ共に一つの問題として扱ってしまったほうが、快適な装備を構築できるのだ。そのうえ、統合して考えることで、天候に応じて何をどう着るかで頭を悩ませる必要がなくなる。最初から最強装備で挑んで、冬コミという期間限定イベントを完全勝利で飾ろう。

地からの冷えを遮断

雨のときに最悪なのは、靴が濡れてしまうことだ。足が冷えると非常にツライし、疲労も増す。また、重い本と荷物を持って一日歩きまわるのだから、足元は絶対にしっかり固めておいたほうが楽だ。そこでオススメしたいのが、『厚手の化繊・ウールの靴下』だ。たとえ靴が濡れても、水分を溜め込まず、保温力の高い素材の靴下を履いていれば大分冷えを防げる。もちろん晴れて冷え込む際の防寒にも有効だ。

水を制御し体温を維持

雨や雪という外部からの水分は肌に到達させないようにブロックし、汗という内部からの水分は一刻も早く肌から吸い上げ放出する。身体を常にドライな状態に保つことが体温調整のキモだ。雨風を通さない最外層としての上着と、直接肌を覆い、汗を吸い取って保温するアンダーウェアをガッチリ固め、その中間の衣服は軽めにするすることで、適度な保温と軽快な機動性を両立可能となる。シェル構造が勝利の鍵だ。

火力は正義

ここまでいかに体温を奪わせないかを論じてきたが、体温自体を増産することで冷えに対抗するという考え方もある。会期中こまめに行動食を摂って体温を維持しよう。チョコレートやパン、おにぎりなどのエネルギー源、体調を整える各種ビタミン群、疲労を低減するアミノ酸と、適度な水分の補給を心がけることで、最後まで体力を維持しつつアクティブに過ごせるのだ。

風を止めれば寒くない

わずかでも風があると、体感気温は格段に下る。これは風が体表のあらゆる場所からどんどん体温を奪っていくためだ。しかし、よほどの強風でなければ、ほんの1枚の布でも風を防ぎ、身体の表面に温かい空気層を保って体温が奪われるのを防ぐことができる。防風・防水性能を持つウィンドブレーカーがあると雨風共に防げるが、最悪晴れていても雨具を着込むことで風を防ぎ、体温を維持できる。



●ご飲食は計画的に！

冬コミ最大大手は、屋外のトイレだ。寒い中長時間の待機となればどうしてもトイレに行きたくなるが、多くの参加者が行列中のトイレを回避するために飲食をガマンしているだろう。しかし並んでいる間ずっと飲食を控えるのは体力の維持という観点からはあまり得策ではない。『ほんの少しづつ、なるべくこまめに補給』を心がけよう。また、乾燥した空気を呼吸しているだけでも喉が乾くので、マスクをしたり時々ガムやキャンディーやキャラメルなどを食べるとよい。

水分を摂るなら、温かい飲物がよいのは当然なので、ぜひ小型魔法瓶の携帯を薦めたい。温かい飲物を買ったらすぐにそちらに移してしまって会場に向かうのだ。

熱湯を小型魔法瓶に満たし、紙コップとレモンの蜂蜜漬けやインスタントのココアやスープ、甘酒や葛湯などを用意して行くのもよい。熱く甘い飲物を少しづつ啜って飲めば、身体も温まり少量の水分で喉の渇きも癒せる上に、気分転換にもなる。



■■再確認・コミケットの基本マナー■■

一般参加者同士、参加者とサークル、立場はさまざまでも1人の参加者と1人の参加者とのコミュニケーションが何十万と集まってコミケットを作っている。どんなに参加者が増えても、規模が大きくなっても、それが変わることはない。コミケット参加者が長年にわたりお互いに気持ちよくイベントを楽しむために培ってきた独自のマナーやルールは、そのコミュニケーションを円滑にし、貴重な会期中の時間をお互いにとってより有効に活用するための実用的なテクニックでもある。

相手や周囲に気を配ることが、結果的に自分の行動をより効率的に行えるというメリットに繋がる、ということは、参加者全員が覚えておいてほしい。

——■並びの基本・購入の基本■——

入場待機からはじまり、トイレでも少しでも人気のサークルでも即行列。コミケットの行列と言えば、今やそのスマートさにおいて一般社会にまで鳴り響く、名誉ある財産である。しかし、その行列を作るのは我々1人1人の参加者であり、1人1人がきちんと並んでいるからこそ、スムーズな行列や移動が成立していることは忘れてはいけない。

- ①行列は決められた範囲に形成する。サークル前の行列であれば、隣のサークルの前にはみ出してはいけない。自分の荷物は身体にひきつけて持ち、前後だけでなく左右の人数も出来るかぎり揃えつつ、行列自体をコンパクトに圧縮しよう。

列の周囲にも他の参加者がひしめいていることをお忘れなく！

また、列では誰かが場所取りをして途中から仲間が加わるのは禁止だ。ただし入場待機列では、最初並んでいた場所からトイレなどのために一時的に列を離れるのはOK。その際は周囲の参加者に一声かけ、了解を得てから列を離れること。

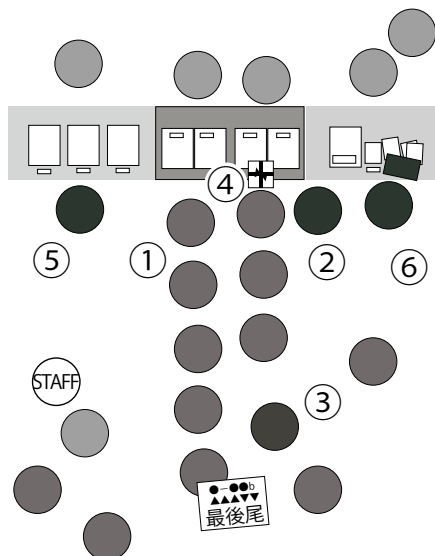
- ②行列があるのにその周囲からサークルに手を伸ばすのはルール違反。そこがたとえ知人のサークルであっても、事前にサークル側から指示を受けていない限り、列の最後尾に並びこと。最後尾に来たら最後の人が掲げている『最後尾札』を引き継ぎ、より新しく並ぼうという人が来るまで掲げておく。

- ③長時間動かない開場前に入場待機列以外では列は頻繁に進んだり、場所自体を移動することもある。誘導指示を聞き逃す、移動の合図を見落とすといったことがさないよう、行列中ではヘッドホン類は外し、携帯ゲーム機などもしまっておこう。

- ④購入時のお金はすぐに取り出せるように、順番が近づいてきたら財布は手元に用意。サークルに挨拶したり、声をかけてもよいが、自分の後ろにも行列があるようならごく短時間に済ませよう。できれば事前に手紙を書いておいて渡すのが自分の気持ちをしっかり伝えられ、サークルにも他の並んでいる参加者にも時間を取らせずに済むベストな方法だ。サークルへのプレゼントにも必ず差出人の名前と連絡先（メールアドレスやSNSのIDなど）、メッセージを書いたカードを付けること。せっかくのプレゼントも、どこの誰からか分からない物では、サークル側も安心して受け取れない。

- ⑤たとえ行列がなくても、サークルの前に長時間滞留して話し続けるのはNG。サークル側の信用のおける友人でスペース内に余裕があるなら中に入ってもらい、余裕が無ければサークル側が出て別の場所でゆっくり話そう。まれに、サークル側が退去をお願いしても無視して留まり、一方的に話し続ける人がいるが、なかなか当該のサークル主は強い対応が難しい。左右のサークル参加者がそういった滞留に気づいたら、スタッフを呼びに行く、注意するなどの助け舟を出そう。

- ⑥卓上に並んでいる本やグッズ、ディスプレイまで含めて、そのサークルの大切な作品である。お金のやり取りの際に積んである本の上に荷物を置いたり、お金を本の上に置くのは本を傷つけたり、崩す危険があるのでやめよう。



■サークル関連基本のマナー■

コミケットのマナーの話となると、『非常識な一般参加者 VS 迷惑を被るサークル』という構図で語られることが多いが、当然サークルの側でも守るべきマナーというものはある。とくに今回初めてサークル参加するという参加者は、サークル側の責任をよく認識しておいてほしい。

- ①代表だけでなく、サークルのメンバー全員でまずは『コミケットアピール』を熟読する。タイムスケジュールの把握はサークル参加の基本だ。その上で事前にサークル通行証を渡しておく。当日朝にサークル入場口の前で待ち合わせて通行証を渡す方法は確実性が低く、会場混雑の原因となるためできるだけ避けよう。また、もし通行証が余っても有償無償を問わず、自分の信頼できる身内以外に譲渡してはいけない。
- ②朝サークルスペースに到着したらまず両隣にあいさつをしよう。朝イチで声をかけてしまえば、以降、何かあった時にでもお互いに声をかけあいやすい雰囲気をつくれる。一日を隣り合って過ごすサークル同士あいさつは基本である。コミケットカタログにもそう書かれている。
- ③サークルに与えられたスペースを逸脱しないこと。テーブルのセンターを超えてテーブルクロスを敷いたり、頒布物を並べないことは当然として、**テーブルの背後の空間でも、隣のスペースまで荷物や在庫をはみ出させないよう十分注意が必要**である。とくに背後のスペースは両隣（島中ならば更に背中合わせのサークルとも）と荷物が混在しやすいので、荷物を引っ掻き回していると防犯の観点からも警備を買うことになりかねない。サークルの荷物はダンボール箱などにきちんとコンパクトにまとめ、テーブルの下など簡単に他人が手を出せない場所にしまっておこう。
- ④自サークルの配置場所、サークル名を大きめに書いた看板を用意しておこう。参加者が自分の位置を確認するのに役立つ親切である。また、最近ではサークルスペースをいきなり撮影されるというアクシデントも多いので、できるだけ『サークルスペースおよび頒布物の撮影を禁止します』という掲示をしておくべきかもしれない。
- ⑤サークルの貴重品、釣り銭、売上などはサークル代表がきちんと管理し、サークルスペースを無人にする場合には頒布物に布をかけ、戻る時間を明記するなどして、貴重品類は必ず持って離れること。個人サークルの場合は一層周囲との連携が必要となる。積極的に左右のサークルと交流を持っておこう。



●総員インフルエンザ＆風邪予防！

冬季の良からぬ風物詩がインフルエンザの全国的流行である。寒空の下何十万人もが密集（しかも年末や製作作業で疲労困憊体力低下している参加者も大勢…）するコミケットはパンデミックの絶好の温床といえるので、全参加者が危機感をもって自衛に務めなければならない。インフルエンザは冷たく乾燥した空気を媒介して喉や鼻の粘膜から感染することが多い。マスクをしたりアメ、ガムやこまめな水分補給で喉の乾燥を防ぐのは手軽で有効な防衛手段だ。

また、指に付着したウイルスを食べ物と一緒に体内に入れてしまうケースも多いので、アルコール除菌タイプのウェットティッシュを持参してこまめに手指を拭く、トイレの際、帰宅の際には必ず石鹸を使ってよく手を洗いうがい念入りにすることは全員が必ず行ってほしい。

また、体温の低下は免疫力の低下に直結するので、コミケット前後はしっかり入浴し、温かい栄養ある食事を摂るようつとめよう。会場から持ち帰るのは戦利品だけで十分だ。



『モジュール化版』持物リストVer.2 《冬》

バックパック

全員必携

- ☐ 飲物と行動食
500ml 1本 / チョコレートや栄養バー系
- ☐ 救急用品
絆創膏 / 常備薬 / カゼ薬・胃腸薬・鎮痛剤 / 健康保険証 / メディカルカード
- ☐ 携帯用予備バッテリー
- ☐ 埃・乾燥予防用マスク
- ☐ 布バッグ等の折りたためるサブバッグ
- ☐ コンビニ袋等ビニール袋数枚
- ☐ ポケットティッシュ数個
- ☐ フェイスタオル2枚

■待機用品 (冬)

- ☐ 温かい飲物入り携帯魔法瓶、水の小型ペットボトル (予備)
- ☐ 折り畳みイス / 敷物 / 携帯用座布団
- ☐ 一食分の軽食
菓子パン / 栄養バー / ゼリー飲料 / おにぎり / 羊羹やナッツ類など
- ☐ 暇潰し用本 / 携帯ゲーム機など

■雨対策装備

- ☐ ポンチョ / レインウェア
- ☐ 追加フェイスタオル2枚
- ☐ 折りたたみ傘

■女性用装備

- ☐ 生理用品・鎮痛剤
- ☐ メイク用品 (肌や唇の乾燥対策・日焼け止)
- ☐ 替えストッキング

貴重品ポーチ

全員必携

- ☐ サイフ①: 購入資金のみ
- ☐ サイフ②: 交通費・予備費・交通カードなど
普段使ってる財布 購入資金が切れたら
試合終了!
使い込みはダメ
- ☐ 携帯電話
- ☐ 免許証、学生証などの身分証明書
- ☐ 緊急連絡先 (保護者・家族など) カード
- ☐ 予備バッテリー2

購入品バッグ

- ☐ 筆記用具
- ☐ 大判ゴミ袋数枚 (雨対策)
- ☐ 配置図 / WebカタログやカタROMをインストールした携帯端末

■基本防寒装備

- ☐ 帽子 / 手袋 / マフラーやネックウォーマー
- ☐ カイロ 貼るタイプと貼らないタイプ
を使い分けよう!

■待機用防寒装備

- ☐ ひざ掛け、ブランケットやストール
- ☐ サバイバルシート 安いフリースのブランケットは
風を防いでくれないので寒い。
できるだけしっかりしたものを。

■オスション

- ☐ 自分の名札 & 名刺 (サークルとの交流用)
- ☐ A4 / B5 プラケース (購入物保護用)
- ☐ ポスター用紙筒
- ☐ スケッチブック
- ☐ サークルへのお手紙やプレゼントなど

サークル参加者必携品

- ☐ 参加登録カード / サークル通行証 (1人1枚)
- ☐ 新刊 / 在庫 / 頒布物各種
- ☐ 釣銭 / 売上・釣銭入れの袋や箱
- ☐ 値札 / 卓上ポップ (看板) / テーブルクロス
- ☐ 見本誌票シール (申込書セットに付属)
- ☐ 筆記用具 / 売上記録用ノート
- ☐ 細マジック・カッターナイフやハサミ
- ☐ ガムテープ
- ☐ ゴミ袋
- ☐ スペース内で食べられる軽食・飲物

コスプレ参加者必携品

- ☐ 完成したコスチューム / ウィッグなど
- ☐ 小道具類 (運搬時の破損と周囲の安全注意)
- ☐ 着替え入れサブバッグと荷物の開封防止用の鍵
- ☐ メイク道具 / ハンディミラー
- ☐ コス着用時に小間物を入れるポシェットやミニバッグ
- ☐ (あれば) コスプレイヤー名刺
- ☐ 暖かい飲物入りミニ魔法瓶、行動食
- ☐ ソーイングキット / 補修道具 / 両面テープ
- ☐ 先行入場申込みに当選した人は送付された通行証

※基本的にリスト上部のものほど必要度が高くなっています。ただし、これらの装備は全て持って行く必要はありません。自分の参加スタイルに合わせて取捨選択して下さい。

■参加者がコミケットを作る■

冒頭にも述べた通り、激変の中の一休みともいえる今回C93。『前回とほぼ同じ』ということがこれほど新鮮に感じられるとは、ここしばらくの流れがいかに急激であったかということにほかならない。企業ブースにも見慣れない出展社名が交じり、参加者の中に数多くの外国の方を見かけることも当然の光景となった。元よりコミケットは変化し続けていく【場】として存在しているので、それ自体は会場の使用方法の変更同様、単に現在のところそうなっている、というだけの話しかない。しかし、我々参加者自身は、その変化について行けているだろうか？

コミケットは、アナタにとって都合のいい場所であり続けるために存在しているのではない。今までがそうであったからといって、これからもそうとは限らないのだ。

取り巻く環境に合わせて変化していくのがコミケットだとするならば、これからの激変期に我々自身がついていかななくてはならない。その上でなお、自分がコミケットでそうあってほしいこと、コミケットに求めることを守っていくためには、これまで以上にアクティブな参加者にならなくてはいけないのが、これからなのだろう。

『オタクのための特別な場』が用意されていたこれまでを越えて、これからは1人1人の参加者が『オタク自身の手で、オタクのための特別な場を維持できるか』というトライアルを突きつけられることになるのだろう。

アナタのためにコミケットがあるのではないが、アナタが参加するからこそ、コミケットは存在する。『ここに50万人のコミケットがあります』と胸を張って言おう。
アナタのコミケットが、これからも豊かなものでありますように！

CAUTION

本記事の内容は全てコミケット準備会のチェック及び承認の上掲載されているものですが、紹介しているアイテム類や行為はコミケット当日の天候や状況によって使用できなくなるものや、禁止となる場合も発生しえます。最終的には現場のスタッフの判断に従ってください。

『臨機応変』もコミケット参加者に求められる大切な認識です。

本コーナーに掲載している健康面についての情報は専門医学的考証に基づいたものではありません。また、取りあげられている各種事例や方法については個人差があり、必ずしも期待される効果をもたらさない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

本コーナーではコミケットビギナーの為に、参加に際して有用と思われる情報や知っておいて欲しいことを繰り返し、様々な切り口から論じています。過去の記事も併せて読むことで得られる情報の密度が向上しますので、是非下記サイトから過去記事もご活用下さい。

<http://www.comi-navi.com> twitter:@Comi_Navi

過去のカatalog掲載Comi-Navi記事のバックナンバーやコミケットQ&Aなどを掲載しています。参加前にぜひ一読を！

コミケットをもっと良い場所にしたいというコミケット参加者のための交流サイトがComi-Navi.com。

ビギナーもベテランも、安心してコミケットやイベントの情報交換や質問、ノウハウの伝達ができる場所をめざして活動しています。

◆カatalog掲載記事まとめ本(夏)(冬)作りました！

約10年分の記事をまとめました。ある意味最強の快適参加マニュアルです。

◆コミケットサポートマガジン『コミケPlus』もよろしく！

コミケPlus誌の製作に全面協力しています。継続のため是非ご購入下さい！

◆コミケット会場でも参加者をサポート！

東1ホール救護室そばの物販ブースにお助けShop出展。会場内で何か困った時にはお立寄り下さい。

■Staff ■Writing:植村 枉(FORTUNE) ■Illustration:桜部のとす(PalePink!)
■Web:大木 真希夫 ■Cooperation:蒼破

ココで
配布中！

